

●やまもとちよう

山元町

山元町の被害状況

	最大震度	6強
	浸水面積	24km ²
	最大浸水深	13.52m
	全壊	2,217棟
	半壊	1,085棟
	一部損壊	1,138棟
	死者	701人
	行方不明者	17人
	負傷者	90人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

防災を学び、防災を実践する拠点

山元町防災拠点・山下地域交流センター (1階防災情報コーナー)

●やまもとちようぼうさいいきよてん・やましたちいきこうりゅうせんたー(いっかいぼうさいじょうほうこうなー)

災害時には「町民の安全・安心を守る防災拠点」

平時時には「地域の交流・活力を創造するための交流拠点」として、震災後に建設されました。1階防災情報コーナーではさまざまな媒体を通し、津波災害の伝承や防災教育への活用、防災意識を高めることを目指しています。4カ所のモニターで震災にまつわる映像を常時上映しているほか、プロジェクトジョンマップングによる津波の浸水域・津波到達のシミュレーション、新市街地完成までの様子を説明する模型などを展示。パネルでも被害状況や復旧・復興の歩みにふれられており、テーマごとに展示や紹介を変えながら、興味を持続させる工夫をしています。施設は「津波防災まちづくり拠点」という側面もあり、自家発電設備や耐震性貯水槽、マンホールトイレ、非常用品備蓄庫を設置。教訓を生かした防災機能には、備えのヒントが詰まっています。

防災情報コーナーには、震災関連書籍を多数所蔵。震災10日後の3月21日に開局し、平成29年(2017)3月まで放送を続けた山元町臨時災害FM放送局「りんごラジオ」の放送の一部を、手回しラジオで聞ける



1階には、72m²の広々とした屋内イベントホールも。日当たりのいいオープンな空間の2階図書コーナーや、山下駅の常磐線ホームが一望できる3階屋外テラスなどのスペースも利用できる



被災状況だけでなく、震災後にできた施設などもパネルで紹介。広域にわたる市街地の移転、常磐線の移設、土砂災害計画区域の展示には、模型を用いているので、広い視野で捉えられてわかりやすい

展示 交流拠点

施設ガイド 車椅子OK

※平日9~17時、要予約

施設DATA

●やまもとちようぼうさいいきよてん・やましたちいきこうりゅうせんたー(いっかいぼうさいじょうほうこうなー)

山元町防災拠点・山下地域交流センター(1階防災情報コーナー)

☎ 0223-37-5592 MAP P115C4

📍山元町つばめの杜1-8

🚶 JR山下駅から徒歩すぐ

🕒 9時~21時30分

🆓 無料 (臨時休館あり)

🆓 無料

🚗 あり(大型バス:あり)

考えてみよう

Q1 「津波防災まちづくり拠点」としての役割を果たすため、非常用品備蓄庫には毛布のほか、非常食をローリングストックし、緊急時にはここから非常用品を持ち出し、町民に配布するといいます。「ローリングストック」とは、具体的にどのような備蓄方法でしょうか?

A1 普段から使っている物、食べている物を少し多めに買って置き、使った分、食べた分だけ新しく買い足していく方法。